

【装置紹介】 超高温 GPC(SEC)装置

1. 概要

代表的なスーパーエンジニアリングプラスチックであるポリフェニレンサルファイド(PPS)樹脂は、耐熱性や耐薬品性に優れており、電子部品や自動車部品など様々な用途に用いられています。一方、耐薬品性に優れているために、室温で溶媒に溶解することは難しく、一般的な GPC(SEC)測定が困難です。このため、PPS の分子量測定には、200℃以上で測定可能な超高温 GPC(SEC)装置が必要となります。

この度弊社では、超高温 GPC 装置を最新機種に更新しましたのでご紹介致します。

2. 超高温 GPC 装置

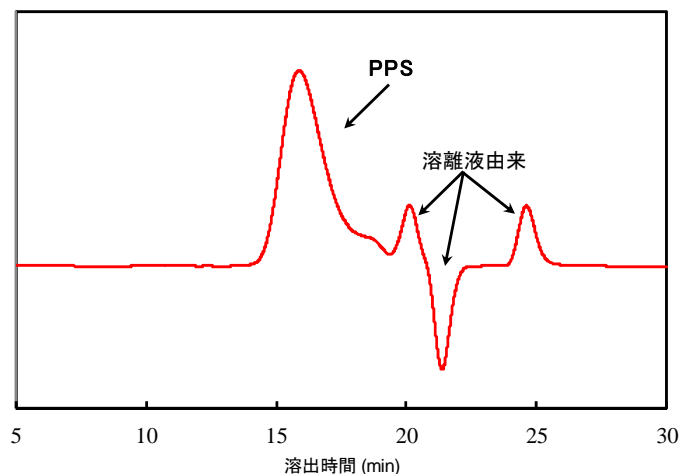
今回新たに導入した超高温 GPC 装置の仕様を表 1 に、外観写真を図 1 に示します。また、市販の PPS 樹脂の測定で得られたクロマトグラムを図 2 に示します。

表 1 超高温 GPC 装置の主な仕様と測定条件

装置名	超高温 GPC 装置 SSC-7110 (センシュウ科学製)
溶離液	1-クロロナフタレン (1-CN)
測定温度	210℃(弊社標準条件), 最高 250℃まで対応可能
検出器	示差屈折計 (RI 検出器)
分子量標準	ポリスチレン (PS)



【図 1】 装置の写真



【図 2】 PPS 樹脂のクロマトグラム

材料キーワード: PPS